

Forest Art Festival in Ladakh 2023

プロジェクト参加 募集概要



ラダックでのアートプロジェクトのスタートから8年が過ぎ、パンデミックの悲劇を乗り越えたラダックの人々と私たちが協働して準備を進めているのが、「社会彫刻」としての新しい形のアートプロジェクト「フォレストアートフェスティバル in ラダック 2023」です。

ラダックの伝統的な家の建材となるヤナギの苗木やワイルドローズやレーベリーといった多用途に利用できる植物などを日本から訪れたボランティアが村人と協働で植樹。その間に日本の美術家が滞在制作によってアートを点在させます。同時にラダックの学校の児童や芸術家たちを招いてアートワークショップを開催します。公開日には、アート作品とからめたダンスや音楽演奏の青空公演、学校を会場としての映像上映なども企画。アートのある村で、鑑賞者を招きつつ、エンパワーメントを醸成し、木の生長を長期に渡って見守り、作品とともに森となる日を楽しみにする、その行為自体をアートととらえます。

2023年はプロローグとして、植樹と滞在制作を行います。

このプロジェクトへの参加者を募集します！

主催するNPO法人ウォールアートプロジェクトとは？

2010年より、インドの学校を舞台に現地の人々と協働し、壁画の芸術祭を開催。アートを媒介に国際交流、教育の整備を目指す法人です。外務省外郭団体や財団などの助成を得て、これまでに日本での芸術祭も含めると通算17回の開催実績があります。ラダックでは、気候変動による氷河の後退などを発信する目的で、2014年と2017年に芸術祭を、2018年、2019年にカンファレンスを開催し、現地との交流を深めてきています。NPO法人ウォールアートプロジェクト公式ウェブサイト：<http://wallartproject.net>

団体沿革：

参加者は何をするの？

ラダックの大地に木を植えます。公開日には、ホールでのオープニングセレモニー、アート作品とからめたダンスや音楽演奏の青空公演などを予定しています。参加者の皆さんには、アートワークショップへの参加をはじめ、ボランティアスタッフとして、現地の人々と芸術祭を創り上げる醍醐味を体験していただきます。また、ランチボックスを携えてのピクニックや現地の取り組みに触れる視察なども予定しています。詳細を伝える説明会（5月2日・10日・20日）に任意でご参加いただきます。

[ボランティア参加要項]

日程：6月6日 成田発 デリー着

6月7日 デリー発 ラダック（レー Leh）着

6月8日～13日 ラダック滞在

6月14日 レー発 デリー着

6月15日 デリー発 成田着(16日早朝)

9泊10日（到着は翌16日）ラダック7泊 デリー2泊

[プロジェクト参加費(9泊10日)]：7万5000円＋航空券代

含まれる費用：デリー市内ホテル2泊宿泊費・市内移動費、ラダック内ゲストハウス7泊宿泊（含む食費）・市内移動費、コーディネートフィー、植樹樹木代

別途費用は以下となります。

☐航空券（Air India）目安：18万5千円（デリー－ラダック往復航空券込み）

*航空券代は燃油サーチャージの変動があるため、現状幅があります。参考値段としてお考えください。

*航空券手配は、K I Cトラベル（東京都知事登録旅行業第3－8040号）に直接お申し込みいただきます。

☐外食費

☐海外旅行保険の加入(各自・必須)

☐観光ビザ(Tourist visa)取得費。各自取得していただきます。旅行代理店に代理申請した場合は約1万円。

その他

☐予防接種は、A型肝炎と破傷風を推奨します。

☐現地の通信環境 宿泊するゲストハウスに設置されているスマートフォンを用いて、国際電話とネットへの接続が可能です。電波状況がすぐれない場合もあります。中心地レー（車で30分ほど）のネットカフェなどで通話とネット環境への接続が可能です。

☐飲料水はペットボトルに入ったミネラルウォーター、もしくは煮沸した水をお飲みいただきます。

*現地での宿泊・交通の手配、プログラムのコーディネートはウォールアートプロジェクトが担当します。

*子どもの参加費用に関しましては、個別にご相談ください。

<募集締め切り> 2023年5月22日 参加費の振り込みを以て参加確定とさせていただきます。

<お申し込み・お問合せ> info@wafes.net（担当：ウォールアートプロジェクト 浜尾和徳）

NPO法人ウォールアートプロジェクト公式ウェブサイト：<http://wallartproject.net>

<場所> インド、ラダック連邦直轄領、マトー村

<現地協力者>

デチェン・チャムガ（写真家・トリニティゲストハウス運営）

シャクンタラ・チャムガ（ソーシャルワーカー）

ナムギャル・ギャルポ（マトー村の王）

ジャミヤング・ツェリン・ナムギャル（マトー村出身の国会議員）

スタンジン・チョスペル（ラダック自治政府の代表評議員）

マトー寺院



左 シャクンタラ
右 デチェン



<招聘アーティスト>

香川大介（日本/美術家）

<https://www.kagawadaisuke.com>

スギサキハルナ（日本/美術家）

<https://harunasugisaki.wixsite.com/184web>

<現地での大まかなスケジュール>

6月6日/1日目

デリー着 空港近くのホテル宿泊

6月7日/2日目

デリーー ラダック 飛行機移動 1h20m

ラダック到着後、ゲストハウスで休憩し、高度順応



6月8日/3日目 マトー村で村人と植樹。アーティスト制作の手伝い

6月9日/4日目 学校の子どもたちとのワークショップ。アーティストの制作手伝い

6月10日/5日目 地元ラダックのアーティストとのワークショップ。作品設置

6月11日/6日目 オープニングセレモニー 作品と植樹地の一般公開

6月12日/7日目 SECMOL 見学 *Students' Educational and Cultural Movement of Ladakh

6月13日/8日目 標高 4500m にあるツォモリリ湖を見にいく 日帰り 片道 225km

6月14日/9日目 ラダックー デリー 飛行機移動 午後半日、自由行動

6月15日/10日目 デリー発 成田行き 飛行機移動 翌早朝(6/16)、成田到着

<説明会開催(要予約)>

5月2日（水）18:30～

5月10日（水）19:00～ キックオフイベント@Kai House 1F（貝印株式会社内 千代田区岩本町 3-9-5）

5月20日（土）14:00～16:00 締切直前説明会

<お申し込み・お問合せ> info@wafes.net（担当：ウォールアートプロジェクト 浜尾和徳）

NPO 法人ウォールアートプロジェクト公式ウェブサイト：<http://wallartproject.net>

<その他のチームの日程>

アーティストチーム 5月30日～6月15日

曹洞宗福島県青年会チーム 5月30日～6月5日

木を植えることから始まる天空の森の芸術祭

Forest Art Festival in Ladakh の社会的価値

Forest Art Festival は、ラダック自治評議会と日本の NPO 法人ウォールアートプロジェクトが共催となり開催する国際的芸術祭です。誰もが世界を変えていく開拓者となりうるという「社会彫刻」*として、ヒマラヤから発信します。

*社会彫刻とは ドイツの芸術家ヨーゼフ・ボイスが提唱した芸術の概念。誰もが未来へ向けて社会を彫刻し、人類の幸福に寄与することができるという考え方。

●フォレストアートフェスティバルは4つの柱で構成されています。

- 1) 木を植えることから始める芸術祭は、私たちの暮らしの源である森の大切さを伝えます。
- 2) アーティストが滞在制作し、その土地の魅力を掘り起こします。
- 3) アートワークショップでアートの魅力を現地の人々と共有し、事業の目的を体感してもらいます。
- 4) 定期開催、他地域開催を視野に入れ、森の成長を見守りながら、活動を広げます。

4つの柱について

- 1) 木を植えることから始める芸術祭は、私たちの暮らしの源である森の大切さを伝えます。

ラダックという極の地で木を植えることには意味があります。ラダックの人々は自給自足に近い暮らしをしていて、CO2 をほとんど排出していません。しかし、温暖化の影響で氷河が目に見えて後退し、水源となる雪解け水が減少し、地下水脈が変化しています。遊牧の民は、牧畜のための草の植生が変化し、家畜を育てづらいと訴えています。農業用水が減少していることから、ファーマーたちの間では、水をめぐる争いも起きています。

芸術祭の会場となるマトー村も同様の困難にさしかかっていますが、標高 6000 メートルのマトー山に抱かれた村には今も澄んだ湧水があり、古来、伝統建築に使われる上質なヤナギやポプラの木を産しています。この村の伝統をとぎれさせることなく、村人と植樹しアートを点在させることで、人間の根源をみつめ、大地とのつながりを再確認しながら、地下水を涵養し、CO2 削減に繋げる一つのモデルケースとします。

樹種は、村人との協議の結果、果樹とヤナギと決めました。これまでこの標高では寒くて育ちにくかったリンゴやアプリコットですが、近年、育ちやすくなってきています。温暖化を逆手にとって、満開の花や実（五年後くらいから収穫可）を楽しむことのできる果樹が、後々開催し続ける芸術祭の会場を彩ることになります。芸術祭を続けることで次世代を担う子どもたちは木や森の大切さを知ります。ラダック自治評議会の協力で、地ならしや柵づくり、点滴灌漑を整備し、農業プロジェクトとしても展開。雇用を生み出す種蒔きともなります。

- 2) アーティストが滞在制作し、その土地の魅力を掘り起こします。

1974 年まで外国人の入域が制限されていたラダックには古来の暮らしが残り、「懐かしい未来」とも言われ、一気に旅行者がやってくる人気地になりました。グローバル化の影響も大きく、経済重視の風潮の中、村を出て都市部で観光業やサービス業に従事する若者が増えました。都市部は急速な人口過密

化で水質汚染や大気汚染の問題が拡大しています。

この芸術祭に日本のアーティストを招聘することには意味があります。ラダックという場所での滞在制作では、その地の空気感を糧にしたアーティストならではの作品が出現します。また、公開日には、その地の自然や大地に敬意を払うダンスや音楽も披露します。そんな芸術祭を自分の村の出来事としてつぶさに目撃する子どもたちは、地域についての理解とアイデンティティを深めます。また、既に村にあるけれど、住民が気づいていないものの価値への気づきを生み出すはずです。地域の良さを体感し、見つめ直し、その特性を活かした暮らしへ目を向けるきっかけとします。

3) アートワークショップでアートの魅力を現地の人々と共有し、事業の目的を体感してもらいます。

ラダックの教育カリキュラムでは美術があまり重要視されておらず、子ども時代にクリエイティブな活動に取り組む機会が少ないのが実情です。

教師らの了承を得て、マトー村の公立学校の生徒全員にアートワークショップに参加してもらうことが決まっています。生徒たちのクリエイティブな感性を養い、今後、フォレストアートフェスティバルの開催を持続していくエンパワーメントにつなげます。ワークショップは村人やラダックのアーティストを対象にも行ない、異文化理解を深めながら、日本のアーティストの制作意図を、言葉を超えて体感してもらいます。ワークショップで完成したみんなの作品は、会場に設置し、森の芸術祭に親しみをもってもらい、長く続けるモチベーションにつなげます。

4) 定期開催、他地域開催を視野に入れ、森の成長を見守りながら、活動を広げます。

苗木が育ち、花と実をつけ、森となるように、フォレストアートフェスティバルも、長いタームで持続することに意味があります。木を植えることからスタートする 2023 年、アートの公開制作を本格化する 2024 年。そのあとは、3 年ごとのトリエンナーレとして、アートを真ん中にたくさんの人々が集い、芸術祭そのものの成長を、森の成長と共に見守ります。ラダックを皮切りに 2025 年には、インド、マハラシュトラ州に位置する先住民ワルリ族の村でも開催を目指して村の若者たちと動き出しています。点が線となり、面となることを目指します。数値化も言語化もしづらいアートによるクリエイティブな発信で、この世界を住みやすくする種まきをします。